

愛郷
無限

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2014年06月22日号 NO.479

写真提供：大田市

Subject：訓書滋身 ブータン人の生き方とは？

今年3月4日のドヤツデーで紹介した、被災地・気仙沼の復興のために地元お母さん達でニットブランドを作るべく設立された【気仙沼ニッティング】。そのリーダー・代表として皆を率いるのはブータン初の日本人フェロー（首相側近）であった御手洗瑞子さん。

彼女がブータンで仕事をした一年間の体験を元に執筆した【ブータン、これでいいのだ】。皆さんにも是非読んでいただきたい内容でしたのでご紹介します。

【ブータン、これでいいのだ】

御手洗瑞子著 新潮社（2012/2/29） ISBN-13：978-4103320111 1,470円

国際的にその国力を示す経済指標として今日世界的に使用されているGDP（国民総生産量）という数値、これに対してGNH（国民総幸福量）という唯一独特の指標を開発し、自国の存在目的としてかかげ、国作りを進めるブータン。

我々が勝手にブータンに描くイメージは、人々は貧しくも幸せであり、自然が残る大いなる田舎であり、敬虔な仏教国でしょうか。しかし実際は、中国とインドという二つの強大国に挟まれ、したたかで緻密な外交戦略を展開しながら、両国とのバランスを取り続ける国でもあるそうです。何より国が目指すべき題目が明確であり、しかも国民がみなそれを理解・共有していることは凄いことです。

とても印象に残ったのは、「日本では自分の自己実現や成功のために祈ったり祈願したりするが、ブータン人は絶対に自分のためには祈らない」これをほぼ100%のブータン人が普通にしれっと言い切るということ。誰もが真っ直ぐ自信に満ちた目で人に対し、そしてブータン人であることに自信を持って、「ブータンは最高でしょう！」と言い切るということ。

どんな苦しいことでも、辛いことでも、「これでいいのだ」と開き直り、諦める（＝明らかに極めるという意味で）ことができるブータン人。自身や事象を全て「しょーがないこと」と肯定できることは現代の日本を考えれば、逆にもの凄いことではないでしょうか。「これでいいのだ！」というフレーズは天才バカボンでバカボンパパが毎度言う台詞でしたが、この本でブータン人の一片を知ることにより、赤塚不二夫という作者は、バカボンの中で痛烈な現代批判と日本人批判をしていたのではないかな？ な～んて思っていました。

当地では四ツ屋地区の【花火米研究会】の皆さんが、ブータン国王に【大曲花火米】を献上して大変な話題になりました。研究会皆さんはとてもおおらかな方々ですが、その素性はブータンにとっても合ってるかもと思った次第です。人的交流にまで繋がれば面白いだろうな～、大曲人とブータン人。